

To Our Shareholders

株主の皆様へ

独自性の高い製品を生み出す
技術力を高め
復活・再生を図ってまいります



代表取締役社長 横山林吉

当期の業績の概要について

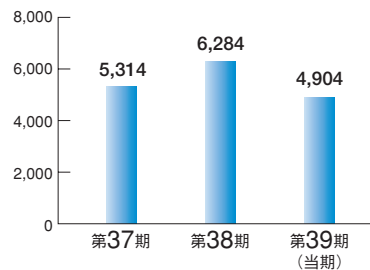
当期は、米国の金融危機に端を発した景気減速が世界的に広がり、特に当社グループ事業の主要市場である自動車産業の大幅な減産により昨年12月から受注が急速に減少しました。その結果、当社グループの連結売上高は49億4千万円（前期比21.9%減）となりました。利益面につきましては、売上高の減少と販売単価の下落及び固定費負担の上昇により、連結経常利益1千4百万円（前期比95.7%減）、連結当期純損失8千万円（前期は連結当期純利益2億1千1百万円）と、私自身も初めて経験するような予想以上の厳しい結果となりました。

来期に向けて

景気後退に伴い、自動車、電機、産業機器分野向けの事業が落ち込む中、医療及びスポーツ関連製品は堅調に推移したおかげで、経常利益は何とか黒字を確保

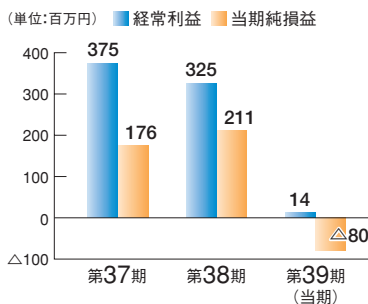
○売上高（連結）

（単位：百万円）



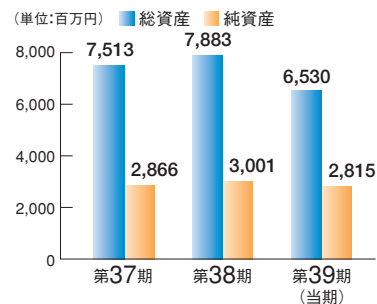
○経常利益／当期純損益（連結）

（単位：百万円）



○総資産／純資産（連結）

（単位：百万円）



できました。そこで、自動車関連製品の他に情報通信とライフサイエンスなどの分野で当社グループが貢献できる分野にも注力し、景気が底を打って再度市場が回復する時に対応できるよう準備を進めていきます。そのために、独自の色調等管理技術、表面改質技術、光学設計技術などの「要素技術」を深耕するとともに、製品企画やプロセス設計など製品開発を強化し、顧客や市場のニーズに対応できる当社グループの独自製品を次々に生み出せる体制を整えていきます。

そのためにも、事業部制から開発本部、事業本部、管理本部の3本部制とする組織変更を行い、次の事業の柱となる開発テーマの発掘と事業化の早期推進を進めています。最大の狙いは、開発本部の充実であり、顧客のニーズ、マーケットをしっかりと調べ、独自製品を生み出す開発のスピードを上げられる組織としていきます。そして、開発のパワーとスピードだけでなく、ものづくりを含めた品質、コスト、納

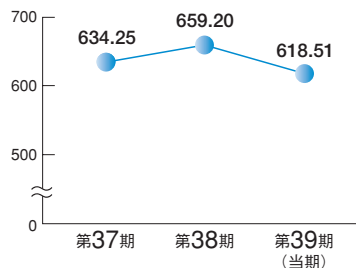
期を強化し、再成長への軌跡を描いていくことができるよう全力で取り組んでいきます。

株主の皆様へのメッセージ

当社グループの配当方針につきましては、中期経営計画（平成18年4月～平成21年3月）の目標として連結配当性向30%を目指しておりましたが、内部留保の充実の観点や安定配当の観点等を総合的に勘案した結果、当期の年間配当金を誠に遺憾ながら前期から4円の減配となる1株当たり8円（中間期5円、期末3円）とさせていただきます。来期も景気回復のペースは遅く、しばらくは厳しい経営環境が続くものと思われませんが、株主の皆様におかれましては、再度成長、復活・再生の路線に入ろうとする当社グループの事業活動をご理解のうえ、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

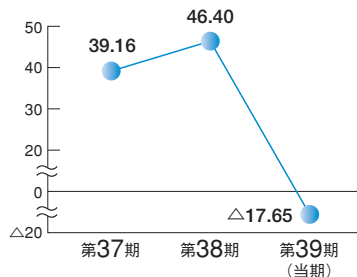
○ 1株当たり純資産額（連結）

（単位：円）



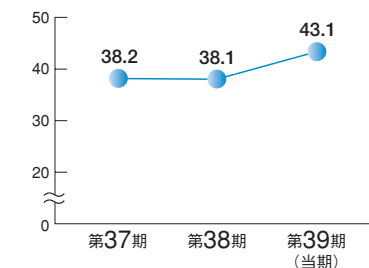
○ 1株当たり当期純損益（連結）

（単位：円）



○ 自己資本比率（連結）

（単位：％）



平成21年6月26日開催の当社定時株主総会並びにその後の取締役会において、代表取締役副社長に就任した伊藤副社長より、就任にあたっての抱負等についてご説明いたします。

就任にあたって

このたび、代表取締役副社長に就任いたしました。代表取締役社長の横山と共に代表取締役2名の体制とすることで、より一層迅速な意思決定ができる体制を整えてまいります。

また、平成21年4月1日からの組織変更により、開発本部長に就任いたしました。経営方針である独自の開発製品の市場供給のスピードアップを図り、市場ニーズに則した技術開発・製品開発を目指してまいります。

過去、いざなぎ景気を越える景気回復期と合わせて、当社グループの業績も順調に推移しておりましたが、昨年の世界同時不況を機に、隠れていた私たちの弱い部分が顕在化したと感じています。これは、順調に成長する中で朝日ラバーとしての基本の部分が見えにくくなってしまったということです。そこで、私は今回の就任を受けて、ものづくりのメーカーの原点に戻って、人や開発、基盤製品などトータルの基盤づくりを中心になって進めていきたいと考えています。



代表取締役副社長
伊藤 潤

開発本部長として

平成22年3月期は、まず開発テーマについて、今の開発手法のままでよいかどうかを含め、もう一度基本に戻って整理し、優先順位をつけることから始めます。それを踏まえて、テーマを特化させ、集中して受注獲得に向けて進めていきます。そして、テーマの市場性、どういう方向性で進むかというような、マーケティング面における企画と設計を行い、事業本部に引き継げるようにすることが役割であると認識しています。開発本部は、確立された基礎技術を応用した製品化や応用展開を推進し、研究所や事業本部と役割分担をしていきます。

当社グループは、創業時より受け継がれてきた良いDNAがあるからこそここまで成長することができたのだと思います。昔とは取り巻く環境は変わっていますが、今こそ、そのDNAを引き継いで、進化させていい方向へ向かう、次世代に向かうための準備の時であると感じています。

伊藤副社長 略歴

生年月日	昭和38年6月14日
平成8年4月	当社入社
平成14年6月	取締役就任
平成15年6月	常務取締役就任
平成19年6月	専務取締役就任
平成21年6月	代表取締役副社長就任

Review of Operations

セグメント別の状況

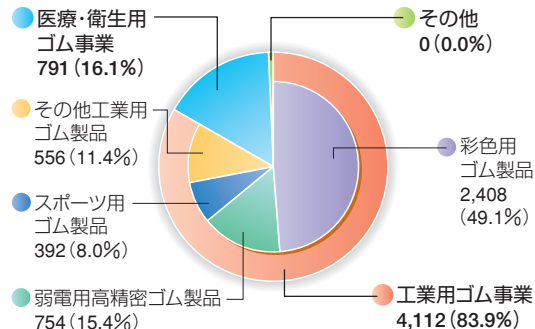
セグメント別実績

セグメント別売上高について、工業用ゴム事業の彩色用ゴム製品と弱電用高精度ゴム製品は、当期の第3四半期以降から自動車関連製品の大幅な受注減により、売上高が減少しました。特に主力のASA COLOR LEDは、第3四半期と第4四半期の売上高を比べると60%以上も減少しており、会社全体の業績に大きな影響を与えました。一方、スポーツ用ゴム製品が好調に推移し、医療・衛生用ゴム事業も医療用ゴム製品の開発製品が順調に伸びています。

当社グループの全ての事業分野において、独自の開発製品を迅速に市場に提供していくことができるような体制を整え、厳しい事業環境においてもお客様のニーズに合った製品開発を進めていきます。

○連結セグメント別決算実績

(単位:百万円)



環 境 へ の 取 り 組 み

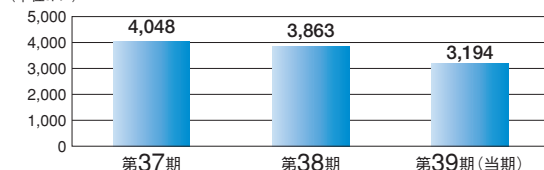
当社では、「環境にやさしいものづくり」をスローガンとして、ISO14001を取得し、環境方針を定めています。

当期は、ゴム屑の廃棄にかかるエネルギーや電気、灯油の使用量からCO₂ (二酸化炭素) の排出量を換算し、前期比で5%減らすことを目標に掲げ、月次指標として総量を減らす活動に取り組んでまいりました。結果として、ゴム屑廃棄量を前期に比べて約10%減らしたことや、熱処理の精度を上げることによる灯油使用量を約12%減らしたことなどにより、総CO₂排出量は、約17%削減することができました。しかし、売上高百万円当たりの総CO₂排出量は、約9%上昇しており、売上高減少による各廃棄量の減少が影響しており、さらなる効率的な取り組みが必要であると考えています。

第40期 (平成22年3月期) は、環境有害物質の全廃体制を構築して、顧客への信用拡大を図るとともに、ゴム屑の廃棄量は39期比で10%の削減、またCO₂排出量を39期比で10%削減することを目標とした活動を続けています。

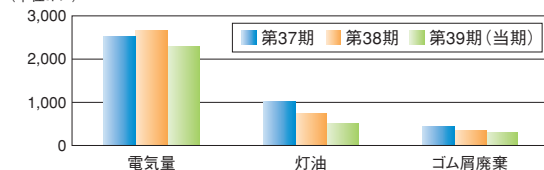
○総CO₂排出量 (工場部門)

(単位:トン)



○主なCO₂排出量の内訳 (工場部門)

(単位:トン)



当社は平成19年10月、シリコンゴム製電波測定用検体の全身ファントム「ラバーファントム」を開発しました。
今回は「ラバーファントム」の特徴や今後の展開についてご説明します。

はじめに

携帯電話やテレビが普及した現在、電波を利用して自分がしゃべった声を遠くの人に伝えたり、映像を見たりできるなど、私たちの生活はとてもし便になりました。

こうした電波は生活に密着していますが、人の近くで電波を利用すればするほど、人がいることで電波の広がりがどのように変化するのかを知っておく必要があります。

電波（電磁波）とはどのようなもの？

電気が発生すると電界と磁界がつくられ、空間を振動しながら伝わります。

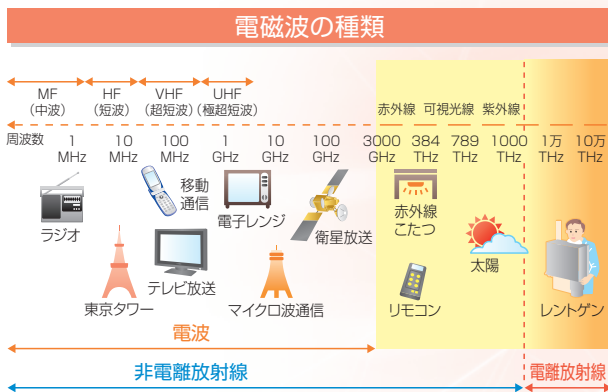
また、振動する回数や波の長さによって、さまざまな特徴があります。電波と電磁波は同じものなのですが、一般に、遠距離は電波、近距離は電磁波というイメージです。電波の波が長いほど、障害物に回り込むことができるため通信によく使用されています。

また、電子レンジなどは振動数が多い電磁波が使われており、食品に含まれる水分子を振動させることによって、摩擦熱を発生させて温めています。

ラバーファントムとは？

「ラバーファントム」は、携帯電話などの電子機器が作動するとき、人が近くにいると電磁波がどのように放射されるのかを測定するための擬似人体です。

電磁波にさらされることによって、人間が吸収するエネルギーを測定するためには、人間と同じ電気特性や形状を再現した検体を使わなければなりません。生身の人間で測定することもできますが、年齢



や体重、体調によって測定に差が出てくるため、標準化が困難です。従来は、人間の形にした容器に生理食塩水を入れたものや寒天、セラミックス等が使われてきました。

しかし、温度によって電気特性が変化することや、時間が経つと劣化してしまうことや、人間より質量が大きく扱いにくいといった課題がありました。

ラバーファントムの特徴

「ラバーファントム」には主に5つの特徴があります。

- ①単独での直立が可能
- ②電気特性の調節が可能
- ③硬さや比重の調整が可能
- ④安定した素材
- ⑤任意の人体姿勢形状や

パーツごとの製作が可能

骨格の役割を果たす繊維強化プラスチック (FRP) を組み込んでいるので、マネキンのように単独で直立することができます。また、材質はシリコンゴム製で、カー



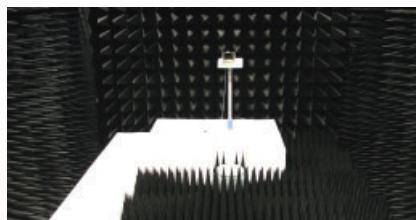
ボン・ナノチューブ (CNT) などの導電性物質を混ぜることで電気特性をコントロールしています。ここには当社の配合技術が生かされています。

そして、シリコンゴムは安定性が高いため、使用する温度や湿度などの環境によって、電気特性が変化することはありません。シリコンゴムは摩擦が大きく柔軟性があるので、手の部分に携帯電話を握らせることもできます。製造過程において測定用のセンサーやチップを埋め込むことも可能です。関連特許も出願しており、「ラバーファントム」の名称で商標も登録しています。



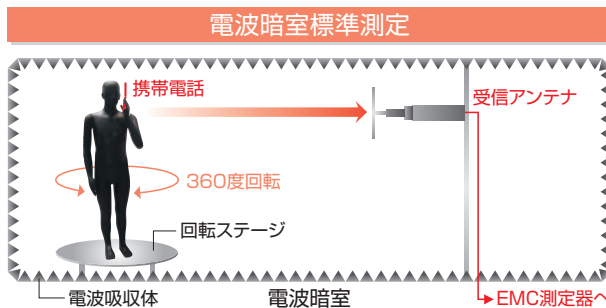
ラバーファントムを使用した測定はどのようなもの？

電波を吸収し無反射の電波暗室で、端末 (発信機) を持たせた「ラバーファントム」を設置し、回転させながら端末から電波を発信させ反対側の受信機で電波の強さを測定します。



今後の取り組みについて

現在、人体を通信媒体として利用する人体通信やID情報を埋め込み通信を行うRFIDタグなどさまざまな分野で電磁波を利用した通信方法が開発されています。



こうした電波や電磁波を扱う分野の評価装置として、これまでNTTドコモ様、三菱電機様、パナソニック様、サムスン様の開発・研究機関向けに納品しており、今後さらに拡販を進めていきます。

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 (平成20年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成21年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,584,524	2,480,758
固定資産	4,299,331	4,049,724
有形固定資産	3,519,210	3,280,565
無形固定資産	7,317	6,657
投資その他の資産	772,803	762,501
資産合計	7,883,856	6,530,483
(負債の部)		
流動負債	2,658,047	1,482,069
固定負債	2,224,069	2,233,245
負債合計	4,882,117	3,715,315
(純資産の部)		
株主資本	2,964,850	2,829,008
資本金	516,870	516,870
資本剰余金	457,970	457,970
利益剰余金	2,033,746	1,898,760
自己株式	△ 43,735	△ 44,592
評価・換算差額等	36,888	△ 13,840
その他有価証券評価差額金	46,994	4,906
為替換算調整勘定	△ 10,106	△ 18,746
純資産合計	3,001,738	2,815,168
負債純資産合計	7,883,856	6,530,483

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	6,284,081	4,904,892
売上原価	4,743,631	3,935,912
売上総利益	1,540,449	968,980
販売費及び一般管理費	1,125,750	922,355
営業利益	414,698	46,625
営業外収益	23,441	43,387
営業外費用	112,599	75,861
経常利益	325,540	14,151
特別利益	1,354	1,873
特別損失	11,838	87,002
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	315,055	△ 70,977
法人税、住民税及び事業税	113,327	8,505
法人税等調整額	△ 9,319	867
当期純利益又は当期純損失 (△)	211,048	△ 80,350

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	872,613	795,583
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 595,158	△ 541,144
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 161,025	△ 271,143
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 14,958	8,926
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	101,471	△ 7,778
現金及び現金同等物の期首残高	414,662	516,134
現金及び現金同等物の期末残高	516,134	508,356

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Non-Consolidated Financial Statements

単体財務諸表

連結株主資本等変動計算書

(単位：千円)

科 目	前連結会計年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	507,088	516,870
当期変動額		
新株の発行	9,782	—
当期変動額合計	9,782	—
当期末残高	516,870	516,870
資本剰余金		
前期末残高	448,224	457,970
当期変動額		
新株の発行	9,745	—
当期変動額合計	9,745	—
当期末残高	457,970	457,970
利益剰余金		
前期末残高	1,877,106	2,033,746
当期変動額		
剰余金の配当	△ 54,408	△ 54,634
当期純利益又は当期純損失 (△)	211,048	△ 80,350
当期変動額合計	156,639	△ 134,985
当期末残高	2,033,746	1,898,760
自己株式		
前期末残高	△ 42,364	△ 43,735
当期変動額		
自己株式の取得	△ 1,370	△ 894
自己株式の処分	—	37
当期変動額合計	△ 1,370	△ 857
当期末残高	△ 43,735	△ 44,592
株主資本合計	2,790,054	2,964,850
前期末残高	2,790,054	2,964,850
当期変動額		
新株の発行	19,527	—
剰余金の配当	△ 54,408	△ 54,634
当期純利益又は当期純損失 (△)	211,048	△ 80,350
自己株式の取得	△ 1,370	△ 894
自己株式の処分	—	37
当期変動額合計	174,796	△ 135,842
当期末残高	2,964,850	2,829,008
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	81,376	46,994
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 34,381	△ 42,088
当期変動額合計	△ 34,381	△ 42,088
当期末残高	46,994	4,906
為替換算調整勘定		
前期末残高	△ 5,034	△ 10,106
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 5,071	△ 8,639
当期変動額合計	△ 5,071	△ 8,639
当期末残高	△ 10,106	△ 18,746
評価・換算差額等合計	76,341	36,888
前期末残高	76,341	36,888
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 39,453	△ 50,728
当期変動額合計	△ 39,453	△ 50,728
当期末残高	36,888	△ 13,840
純資産合計	2,866,396	3,001,738
前期末残高	2,866,396	3,001,738
当期変動額		
新株の発行	19,527	—
剰余金の配当	△ 54,408	△ 54,634
当期純利益又は当期純損失 (△)	211,048	△ 80,350
自己株式の取得	△ 1,370	△ 894
自己株式の処分	—	37
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	△ 39,453	△ 50,728
当期変動額合計	135,342	△ 186,570
当期末残高	3,001,738	2,815,168

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前事業年度 (平成20年3月31日現在)	当事業年度 (平成21年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	3,426,993	2,349,695
固定資産	4,299,709	4,044,264
有形固定資産	3,448,419	3,224,844
無形固定資産	7,071	6,411
投資その他の資産	844,217	813,008
資産合計	7,726,702	6,393,960
(負債の部)		
流動負債	2,613,514	1,439,684
固定負債	2,145,561	2,183,519
負債合計	4,759,076	3,623,203
(純資産の部)		
株主資本	2,920,631	2,765,850
資本金	516,870	516,870
資本剰余金	457,970	457,970
利益剰余金	1,989,527	1,835,602
自己株式	△ 43,735	△ 44,592
評価・換算差額等	46,994	4,906
その他有価証券評価差額金	46,994	4,906
純資産合計	2,967,626	2,770,756
負債純資産合計	7,726,702	6,393,960

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	前事業年度 (自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)	当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	6,254,089	4,832,078
売上原価	4,783,306	3,913,203
売上総利益	1,470,782	918,875
販売費及び一般管理費	1,075,102	898,483
営業利益	395,680	20,391
営業外収益	22,038	67,612
営業外費用	115,534	53,206
経常利益	302,183	34,798
特別利益	1,354	1,850
特別損失	11,838	133,207
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	291,699	△ 96,559
法人税、住民税及び事業税	107,813	2,337
法人税等調整額	△ 8,526	392
当期純利益又は当期純損失 (△)	192,412	△ 99,289

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Questionnaire Result/Topics

アンケート結果のご報告／トピックス

アンケート結果のご報告

平成20年6月26日に定時株主総会の決議ご通知に同封して、平成20年3月末時点の株主の皆様にはアンケートをお送りいたしました。アンケートには91名の株主の皆様にご協力いただき、誠にありがとうございました。アンケートの結果につきまして、一部をご報告いたします。

■ 調査対象：全株主 1,190名

■ 集計対象はがき：91枚

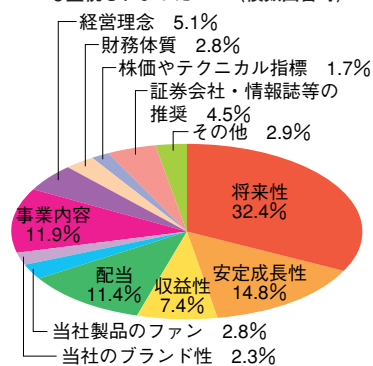
■ 調査方法：決議通知に同封（平成20年6月26日発送）

■ 返送率：7.6%

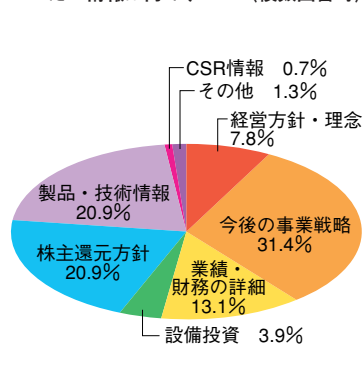
■ 調査期間：平成20年6月27日～平成20年7月22日

※総回答数を母数として割合を算出しています。

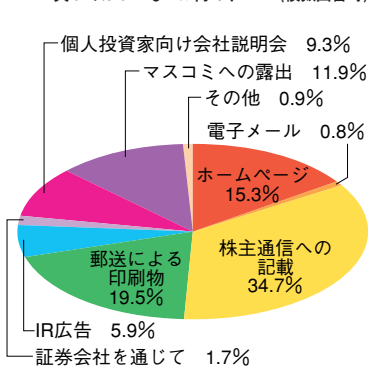
Q. 当社株式を購入された際、何をもっとも重視されましたか？（複数回答可）



Q. 当社に関して、もっとお知りになりたい情報は何か？（複数回答可）



Q. 当社から発信する情報手段について、特に充実してほしいものは何か？（複数回答可）



貴重なご意見ありがとうございました。

今回もアンケートはがきを同封しております。ご協力をお願いいたします。

トピックス

「サポラスアーチパッド」が「通販生活」に掲載されました

当社の衛生用ゴム製品であるサポラスが、4月16日に発売されたカタログハウス社が発行する通販雑誌「通販生活」夏号に、「サポラスアーチパッド」という商品名で掲載されました。「素材は弾力性の高い朝日ラバーの『サポラス』です…」と社名も紹介されていますので、機会があればぜひご覧ください。



「通販生活」2009年夏号より

岩手大学で工学博士の学位を取得しました

当社従業員と子会社の(株)ファインラバー研究所の取締役が、岩手大学大学院工学研究科の物質工学専攻（大石好行研究室）における社会人選抜枠の博士後期課程を修了し、工学博士の学位を取得いたしました。

研究テーマ

「高分子多孔質体の製造に関する研究」
営業本部営業統括グループ長

渡辺陽一郎

「分子接着剤を用いるシリコンゴムの直接加硫接着に関する研究」
(株)ファインラバー研究所取締役 高木和久



左から高木取締役、大石教授、渡辺グループ長

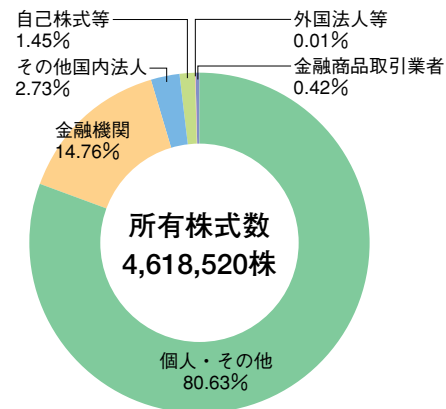
株式の状況 (平成21年3月31日現在)

■ 発行可能株式総数	11,500,000株
■ 発行済株式の総数	4,618,520株
■ 株 主 数	1,183名
■ 大 株 主	

株 主 名	当社への出資状況	
	持 株 数	出 資 比 率
伊 藤 巖	1,057,528株	23.2 %
株 式 会 社 南 日 本 銀 行	219,500	4.8
朝 日 ラ バ ー 共 栄 持 株 会	148,500	3.3
朝 日 ラ バ ー 従 業 員 持 株 会	142,028	3.1
室 井 豊	134,500	3.0
株 式 会 社 武 蔵 野 銀 行	113,000	2.5
株 式 会 社 東 邦 銀 行	97,400	2.1
株 式 会 社 西 京 銀 行	96,500	2.1
伊 藤 潤	83,000	1.8
横 山 林 吉	79,460	1.7

(注) 出資比率は自己株式 (66,980株) を控除して計算しております。

所有者別株式の分布状況



会社概要

商 号	株式会社朝日ラバー (ASAHI RUBBER INC.) http://www.asahi-rubber.co.jp
所在地	埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2
設立	昭和51年6月 (創業 昭和45年5月)
資本金	5億1,687万円 (平成21年3月31日現在)
J A S D A Q	証券コード5162
正社員数	224名 (平成21年3月31日現在)
主な業務内容	工業用ゴム製品の製造・販売
主な取引銀行	みずほ銀行／三菱東京UFJ銀行／武蔵野銀行／ 東邦銀行／常陽銀行／埼玉りそな銀行
事業所	本 社 埼玉県さいたま市大宮区土手町二丁目7番2 大阪営業所 大阪府大阪市城東区蒲生1丁目12番10号 福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字坊頭窪1番地 第二福島工場 福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字山崎山1番地3 白河工場 福島県白河市萱根月ノ入1番地21 上海駐在事務所 上海市長寧区延安西路1088号長峰中心516室 関係会社 ARI INTERNATIONAL Corp. (米国イリノイ州) (株)ファインラバー研究所 (埼玉県さいたま市) 朝日橡膠 (香港) 有限公司 (中国香港)

役員 (平成21年6月26日現在)

取締役会長	伊 藤 巖
代表取締役社長	横 山 林 吉
代表取締役副社長	伊 藤 潤
常務取締役	中 沢 章 二
取締役	亀 本 順 志
常勤監査役	埴 雅 夫
監査役	柳 沼 晃
監査役	福 家 弘 行
監査役	鈴 木 敦

○株主メモ

事業年度
期末配当金受領株主確定日
中間配当金受領株主確定日
定時株主総会
株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関
同連絡先

4月1日～翌年3月31日
3月31日
9月30日
毎年6月に開催

三菱UFJ信託銀行株式会社

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所
公告の方法

ジャスダック証券取引所
電子公告により行う

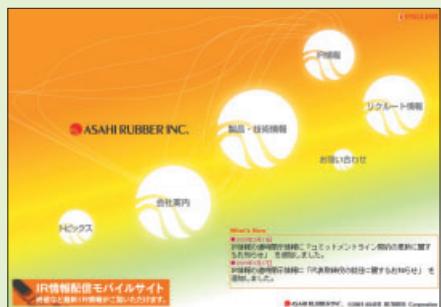
公告掲載URL <http://www.asahi-rubber.co.jp>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
4. 本年から配当金の口座振込のご指定の方と同様に、「配当金領収証」により配当金をお受取になられる株主様宛にも「配当金計算書」を同封しております。配当金をお受取になった後の配当金額の確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。

○ホームページのご紹介



■トップページ

<http://www.asahi-rubber.co.jp>

■IR情報配信モバイルサイト

当社の最新ニュースや財務データ、企業理念、日々の株価の動きなどがご覧いただけます。モバイル用URLもしくはQRコードでアクセスいただき、ページをご覧ください。



■モバイルサイトトップ

<http://m-ir.jp/c/5162>

株主の皆様への社内報発送中止について

当社は、これまで3ヶ月に一度発行している社内報を株主の皆様にご送付していましたが、社内コミュニケーションの強化と費用削減など合理化を進めるため、今年4月からの発送を取りやめることになりました。

これまで当社の社内報をお読みいただき、ありがとうございました。

株主の皆様への情報発信は、開示情報やメディアへのアプローチなどで対応してまいります。

ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。